

令和5年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立若宮中学校
実施日	3月8日 現在

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	○坂戸市教研研究発表が無事にすることができた。 ○市教研発表を通して、研究主任等を中心にICTを推進し、授業実践をしている。 ○今まで以上に教職員のチームワークが発揮されるような職場を目指す。 ●生徒の特性などに応じた年度当初の検討が必要。 ●年度当初に確認しているが、年間を通して意識するのが難しい。 ●特色ある学校づくりの経営ビジョンが明確ではなく、不十分と感じた。 ●組織としての対応、取組みはまだまだ、不十分。	B	・「特色」とするには、他にない「若中らしさ」や「若中の良さ」をもっと生徒も共通認識して、そこを生かして伸ばしていくと、わかりやすく自信をもって取り組めるのでは。 ・経営ビジョンが不確かであることや組織的に取組みが不十分という意見があったということなので、それらの点の改善をお願いしたい。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	B	○年3回の避難訓練は、ねらいがはっきりとしている。 ○どのような災害があるか分からない中、様々な状況下での訓練や準備ができています。 ○マニュアルを毎年作成して、確認し、チームで活用している。 ○有事の際のお迎え対応もあり、丁寧。 ●防災教育の専門家を講師として招き、研修を行う。 ●災害についての避難所対応の研修等が必要。 ●トラブルや重大事案に対して、組織としての対応が図られるとよい。	B	・地震や水害を想定した避難所設営の模擬体験を市が中心となり、地域と先生と出来れば、生徒も巻き込めできると地域社会の一員として成長できる機会となるのでは。 ・定期的な避難訓練が実施されているということであり、今後も継続ください。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。（市共通項目）	B	○勤務時間や働き方について、会議で話があるため、見直しがしやすい。 ○職員会議の際に勤務時間を可視化。定期テストの際の年休が取得しやすい。 ○毎月の残業時間確認やふれあいweekなど働き方改革を進めている。 ○教員間での声かけができています。意識や雰囲気も変わってきた。 ○教頭先生を中心に積極的に進められている。 ○年休を取得しやすい雰囲気は今後も継続。年休を10日以上取得することができた。 ●計画的に見通しをもった仕事をするための声掛けを増やす。計画的に仕事をする。 ●学校で働き方改革を進めていくことは難しい。徹底はされていない。市全体で方針を進めてもらいたい。 ●時間外の時間を減らすのは仕事量で難しいと思いますが、教職員の意識が大切と思う。 ●来年度も是非、支援員を配置してほしい。	B	・生徒の下校時のように、17時にさわやかな音楽を流すとか。 ・会議の始めに終わりの目標時間を全員で確認するなど、まずは時間を意識する習慣から。 ・休みやすい雰囲気がある一方、「仕事が終わらない」という声もあったということなので、これからも意識付けをお願いいたします。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。（市共通項目）	B	○個別の席を隣同士つけることが全クラス出来てきた。 ○グループ活動を自然にできる生徒が多いように感じた。 ○毎時間、ペアやグループで学習を行い、学び合いを取り入れた。 ○ICT活用の研修がとてもためになった。授業の工夫・改善を図っている。 ○教科の特色を生かして深い学びができるように努めている。 ○研究発表を機に互いの授業を見る機会を設けた。 ○主体的・対話的で深い学びのある授業のための研鑽をしている。 ●一斉指導型の授業のみの先生が見受けられる。もう少し生徒の活動を増やす。 ●INPUTの授業内容が多く、生徒にOUTPUTさせる授業の工夫が必要。 ●対話的な学びをふかめること、授業規律の両方が大切と感じている。 ●授業を見合う機会が増えるといい。授業が見合えなかったの で、お互いを高め合うことができなかった。 ●常に授業を見直してフィードバックする。	B	・先生だけでなく、生徒も例えば1、2年生が3年生の授業をみるとか。異年齢での学習とか、難しいとは思いますが。 ・知識伝達型の一斉授業が多いとのことでしたので、そうした授業もありつつも、学び合いの学習時間も取り入れていただけたらと思います。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	○週1時間ではあるが、生徒に大切なことを伝えることができた。 ○学年の道徳担当が重点項目や年間計画を立ててくれた。 ○進路と関連付けた豊かな心を育む授業の充実が実践できた。 ●道徳の授業は、計画的に実施・振替え等できているか。部会を中心に検討を。 ●他の授業に振り替えたり、計画的に実施出来たりしていない現状がある。 ●道徳だけではなく、各教科でも多くの経験ができるようにする。 ●道徳の授業が「考え議論する道徳の授業」への変換が出来ていない。 ●年間を通じて、命の大切さ、いじめ防止の教育、継続した、いじめ防止の指導は欠かせない。 ●自己肯定感を高めるというよりは、一方的な授業になってしまった。	B	・道徳はもちろんですが、是非、子どもたちの言葉の力を伸ばして欲しいです。すべて、同じ言葉で済ますのではなく、1つの言葉をどれだけたくさんの別の言葉や表現に置き換えられるかや、逆に1つの表現(言葉や音楽や絵でも)からどれだけたくさんのことを想像できるか、くみ取れるか、受験では答えが1つかもしいませんが、みんな同じがいいのではなく、みんな違ってみんないいと思える授業を大切にしてほしいです。 ・数学だって答えは同じでもそこへたどり着く導き方は違っていいし、それが面白い。 ・国語の読解だって、人と違ったらどうしてそう考えたのかの部分に面白さがある。 ・詩や俳句、音楽や美術の鑑賞なら全員違っていいわけで、書かれていない部分、見えない部分をどれだけ想像力をふくらませて考えられるか、そういうことをたくさん経験して、他人の気持ちを推し量れるようになって欲しいです。 ・プランターの土が乾いて花がしおれていたら、水が足りないことに気付けるようになって欲しいし、進んで水やりができる行動を起こせるようになって欲しいと思います。 ・厳しい評価になってしまうかもしれませんが、生徒がお互いを尊重し合い、命を大切にする授業の充実をお願いします。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。 (市共通項目)	B	○概ね生徒たちの生活は落ち着いている。 ●生徒とともに、時間の意識を持たせていきたい。(ノーチャイム) ●教員自らが模範を示すこと。率先した挨拶。もっと明るく、さわやかな挨拶ができるとよい。丁寧な言葉遣いが出来ていない ●挨拶、返事ができない生徒が多い。(自ら進んで)挨拶に課題。朝会での返事、挨拶が気になる。 ●公の場での挨拶に課題がある。委員会等、重点的に促していく。 ●生活安全委員会が毎朝、挨拶を行っているが定着していない。今後は、全委員会で行き組むことも考えてみてはと思う。	B	・自分とつながりのある人とのあいさつは出来ていますが、全校の人数が増え、つながりのない人へのあいさつは難しいようです。 ・コロナ禍で、出来なかった他学年との交流、体育祭の団を生かした行事や朝会などでつながりを作っていくことからあいさつにつながるかも。 ・厳しい評価かもしれませんが、日常的なあいさつの励行や言葉遣いから、心の豊かさを育てていただきたい。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のため積極的に取り組んでいる。 (市共通項目)	A	○定期的な倫理確立委員会と研修がしっかりと行われている。 ○不祥事根絶のための共通理解が図られている。 ○倫理確立委員会の研修会でチェックリストを活用して意識啓発を行っている。 ○様々な場面で不祥事根絶に向けての話や取り組みが行われている。 ○何か悩みがあれば、相談しやすい雰囲気である。 ●計画的に開催できるよう年間計画に入れ、定期的な見直しがある。 ●職員間の相互チェックが必要。	A	・生徒も先生も人数が増え、若い先生も多い中、先生方が笑顔で明るい雰囲気なのは素敵です。 ・今後も倫理確立委員会の継続をお願いします。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にすることで接している。	B	○道徳観、倫理感が高い職員が多い。 ○おだやかで優しさのある教職員集団だと思います。 ○不登校児童生徒の支援方針を校内会議で検討している。 ○教育相談部会や相談室などで連携を図っている。 ●特性があり、対応の難しい生徒も多く、組織的な対応と研修を重ねる必要がある。専門家の意見が欲しい。 ●教職員の言葉遣いに気をつける。 ●生徒と教員間の距離を近づけられるような対応ができるとよい。 ●時間外登校、リモートで繋いでいけるとよい。 ●情報等、抱え込んでしまっている先生もいる。フォロー体制が確立できるとよい。	B	・これだけ人数が多いので、不登校生徒の支援員の加配などが市の方からあるとよいのでは。 ・心療内科的アプローチの研修を取り入れるとか。 ・不登校が必ずしも問題というわけでもありませんが、不登校生徒への柔軟で受容的な支援をよろしくお願いします。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	○特別支援学級の生徒が作った野菜やお菓子販売を通じて交流ができた。 ○就学支援委員会を定期的に行っている。 ○教員全体の協力により、通常学級との交流を重ねている。 ●通常学級でも扱いの難しい生徒が増えている現状があるり、今後、研修の必要性を感じる。 ●特別支援学級の先生が通常学級の生徒と係る時間や特別支援学級の教員の見届けがあるとよい。 ●特別支援の体制がまだ、図られていない。ユニバーサルデザインなど共通のものを提示してもよい。 ●就学支援委員会は、教育相談部会で兼ねさせてもらっているのですが…周知が足りない。 ●前年度踏襲の授業計画を今年度の生徒に対応した計画への変更を考えてほしい。	B	・発達障害や精神障害が増える中、その子たちの将来の選択肢を知っておくのも大切なので、福祉作業所や就労支援の見学や研修とか、20年後の自立へつなげる視点。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	B	○危険箇所を速やかに対応していただけてる。 ○美化委員会が定期的に清掃用具を整備している。 ○定期的な安全点検、清掃区分等、責任者の明確化によって環境整備に努めている。 ○安全担当を中心にパトロールや声掛けが行われている。 ●期限が過ぎたり、ボロボロの掲示物が貼ったままのものがあります。 ●足を怪我したり、手術したりした生徒の移動が大変そう。(構造上の問題) ●3階の渡り廊下は危険。対策が必要。 ●安全点検の確実な実施。周知の必要性。有効活用。 ●老朽化による修繕の難しさ。 ●学年の掲示板に工夫が必要。	B	・全面的な校舎建て替えの予定がないのなら、今のベランダ、廊下に壁を付けて、屋内廊下に改修できないか。 ・飛び降り防止につながると思う。 ・老朽化の進む箇所について、是非整備をお願いしたい。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。 (市共通項目)	A	○今年度、HPをリニューアルできた。ホームページでの情報提供から家庭、地域社会に対して、開かれた学校づくりに努めている。 ○教務主任、GIGA担当の先生方に感謝。 ○ホームページがとても使いやすくなった。積極的に更新していく。 ○マメールもうまく活用されている。 ●不審者情報をもっと提供した方がよい。	A	・ホームページのリニューアルをもっと宣伝したほうがよい。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	○学校応援団がよく動いていてありがたい。家庭科の授業支援、助かっています。 ○部活動等を通じて、地域の人材を諸活動に活用できている。 ●コロナ禍の影響で縮小した家庭・地域との連携を強化していく。 ●地域での交流行事、ボランティアへの参加の必要性。交流行事を通して人との関わりを学ぶ場を増やす。 ●地域と繋がった授業ができるように努力する。 ●自転車の乗り方に問題があるので、地域と連携して改善に取り組みたい。	B	・地域人材の掘り起こしを市の方で、町内会と学校と老人会などを結び付ける会合の場をセッティングできないか。 ・防災や防犯、交通安全などから取り組めるのでは。 ・通学路点検など、まだ、危険な場所があるとのことでしたので、引き続き、地域の方との協力をお願いします。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。	B	○情報交換会や交流会を通して、小学校との連携を深めている。 ●小中での共同研修の必要性。小中教員間の親交を深める。 ●生活の決まり(言葉遣い・挨拶・返事・時間の意識など)を小学校と共有・共通理解が必要。 ●中1ギャップをなくしたい。 ●授業参観だけでなく、小中間協議も行えた方がよい。 ●特別支援学級の共通認識、取組をできるようにしたい。	B	・コロナ禍も落ち着いてきたので、また、授業体験や吹奏楽部の演奏派遣などできるとよいのでは。